

## 〈研究報告〉

# 患者の主体的な治療参加を目指す入院前面談を担当する 看護師のかかわり

Involvement of nurses in charge of preadmission interviews aiming at patients' proactive participation in treatment

鈴木薫代<sup>1</sup> 篠木絵理<sup>2</sup> 田久保由美子<sup>2</sup>

1 千葉市立青葉病院

2 東京医療保健大学 千葉看護学部 看護学科

Nobuyo SUZUKI<sup>1</sup>, Eri SHINOKI<sup>2</sup>, Yumiko TAKUBO<sup>2</sup>

1 Chiba Aoba Municipal Hospital

2 Division of Nursing, Chiba Faculty of Nursing, Tokyo Healthcare University

**要 旨：**目的：入院前面談を担当する看護師が行う患者の主体的な治療参加を目指す意図的なかかわりを明らかにする。

方法：首都圏内の地域医療支援病院の入退院支援部門等で、入院前面談の経験が1年以上の看護師に、半構造化面接を行い、主体的な治療参加を目指す意図的なかかわりを帰納的に分析した。

結果：対象者は入院前面談の経験が1～4年の看護師8名、インタビューは1回で13～61分であった。【入院理由を語ってもらうことで理解していることを把握する】【納得しての入院となるように働きかける】【入院前から入院後の治療に専念できる状況をつくる】【本人が表出した意思を尊重する】【院内にサポート体制があることを伝える】【気になることを他部署に引き継いでおく】の6カテゴリが得られた。

結論：入院前面談を担当する看護師は、患者の主体的な治療参加を目指し、まず入院の理由を語ってもらい、納得しての入院となるよう働きかけていた。

**Abstract：** **OBJECTIVE：** This study aims to identify the intentional involvement of nurses who oversee preadmission interviews aiming at patients' proactive participation in treatment after admission.

**METHODS：** Semi-structured interviews were conducted with nurses with at least one year of experience in conducting preadmission interviews in the admission and discharge support departments of community hospitals in the Tokyo metropolitan area, and their intentional involvement to encourage proactive participation in treatment was analyzed inductively.

**RESULTS：** Participants were eight nurses with one to four years of experience in preadmission interviews, and each interview lasted 13 to 61 minutes. The following six categories were identified: 'Grasping the patient's understanding by having patients talk about the reasons for hospitalization,' 'Helping patients accept hospitalization with full understanding,' 'Creating environment that enable patients to concentrate on treatment during hospitalization before admission,' 'Respecting the wishes expressed by patients,' 'Communicating that there is a support system in the hospital,' and 'Passing on any concerns to other departments.'

**CONCLUSION：** Nurses in charge of preadmission interviews made effort to help

patients accept hospitalization with full understanding by firstly having the patients talk about their reasons for hospitalization while aiming at patients' proactive participation in treatment.

**キーワード**：入退院支援、外来看護、継続看護

**Keywords**：Admission and discharge support, Outpatient nursing, Continuing nursing

## I. 緒言

地域包括ケアシステムにおける病院・地域関係機関のシームレスな連携に向け、2008年の診療報酬改定で「退院調整加算」が新設され、数回の改定を経て、2018年には「入退院支援加算」へと改定、同時に「入院時支援加算」が新設された。

「入院時支援加算」は、入院を予定している患者が入院生活や入院後にどのような過程を経るのかをイメージでき、安心して入院医療を受けられるような、より優しく丁寧な医療を推進する観点から、外来において、入院中に行われる治療の説明、入院生活に関するオリエンテーション、持参薬の確認、褥瘡・栄養スクリーニング等を実施し、支援を行った場合の評価<sup>1)</sup>であり、面談を通して実施されている。

在宅療養移行支援の取り組みとして、患者の通院中から信頼関係を築いている外来看護師と入退院療養支援室の看護師が共同で入院前面談を行い多職種と連携した施設では、入院前から専門的な助言を受けることで患者・家族は“何を知りたいか”“何を整えておきたいか”など主体的に考え、気になることを相談しやすい状況となったという<sup>2)</sup>。また、予定入院患者に対し、入院手続きや持ち物などの説明等を事務クラークが行った後、専任のアセスメント看護師が診察室で渡された入院診療計画書や患者用クリニカルパスなどを用いて患者の病状の理解を確認し、入院後の検査説明等を行っている施設では、面談を実施した患者の診療科別入院日数は平均1.2日短縮し、在院日数のばらつき（標準偏差）も少なくなっている<sup>3)</sup>。これらの報告では、入院前面談を看護師が担当することで患者・家族が主体的に考えるという変化を認め、在院日数の短縮につながるという成果が示された。

入院前面談を担当する看護師は患者支援として状況を把握し、多職種や病棟・外来等との連携を図っているが、看護師による患者とのかかわりそのものを明らかにした研究は見当たらない。入院前面談を担当する看護師が患者の主体的な治療参加を促すことは、患者

や家族が入院から退院後の生活を自分のことと捉えることにつながるものと期待され、地域包括ケアにおいて意義があると考えた。

## II. 目的

入院前面談を担当する看護師が行う、患者の主体的な治療参加を目指す意図的なかかわりを明らかにする。

## III. 方法

### 1. 用語の定義

本研究における「主体的な治療参加」とは、患者が入院前の段階から自己に提供される医療について、自身の病状や治療方針などの情報などを理解し、納得・同意していること。その上で、これからのことを自分のこととしてイメージし行動を起こそうとすることである。例えば、「術前指示のとおり自ら行う」や「治療に関する疑問点を自ら明らかにし、看護師に相談する」等の行動が認められるとした。

### 2. 研究デザイン

半構造化面接による質的記述的調査研究

### 3. 期間

研究期間：2023年7月11日～2024年2月28日

調査期間：2023年8月30日～2023年11月9日

### 4. 研究対象者

首都圏内の地域医療支援病院に所属し、入院時支援加算が新設された2018年の診療報酬改定以降に入院前面談の経験が1年以上の看護師約10名。なお、調査段階で、入院前面談を行っているかは問わないとした。

### 5. データ収集方法

自作のインタビューガイドに基づいた半構造化面接

を対面もしくはWeb会議システム「Zoom」により実施した。面接は双方ともプライバシーの確保ができる個室で実施し、対象者の許可を得てICレコーダーに録音した。面接時間は1名60分程度とした。

## 6. 調査内容

対象者の背景として、看護師経験年数、入院時面談経験年数、経験した診療科、認定・専門看護師等の資格の有無について情報を得た。

インタビューは、以下の4つの内容に関して実施した。「入院前面談時に、病状や治療に対する患者や家族の理解状況や考えをどのように把握していますか。具体的な問いかけなど実施されていることを教えてください」「患者が治療に対して主体的であるかをどのように判断していますか」「患者の主体的な治療参加を目指しどのようなことを実践していますか」「主体的な治療参加を目指した実践に対する反応としてどのようなことに着目していますか」なお、想定した入院前面談の対象は事前に入院が決定している患者であり、緊急入院は対象外とした。

## 7. 分析方法

入院前面談を担当する看護師が行う、患者の主体的な治療参加を目指す意図的なかかわりを分析のテーマとし、質的帰納的に分析した。インタビューの録音内容から逐語録を作成した。逐語録を精読し、研究テーマに関する文章を抽出、意味内容のわかる範囲で区切り要約した。要約は内容の類似性・相違性に基づき、サブカテゴリー化・カテゴリー化した。以上の分析は、質的研究に精通した2名の看護学研究者とともに統一した見解となるまで行った。

## 8. 倫理的配慮

本研究は、東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：院023-20C）。対象者には、研究の目的と概要の他、データの管理方法や匿名性の保持、調査協力の任意性、拒否と中断の自由、同意撤回などを文書と口頭にて説明し、研究参加の同意を署名により得た。

# IV. 結果

## 1. 研究参加者の属性

研究参加者は6施設より8名であった。入院前面談の経験年数は1～4年、看護師経験年数は9～39年、認定・専門看護師の資格を有していたのは1名であった。また、全員が内科系外科系など3か所以上の部署

を経験し、うち4人は地域連携室の経験者であった。

## 2. インタビュー分析結果の概要

インタビュー時間は13～61分であった。入院前面談を担当する看護師が行う主体的な治療参加を目指す意図的なかかわりについて、87の要約から、25のサブカテゴリー、6つのカテゴリーを抽出した（表1）。

## 3. 入院前面談を担当する看護師が行う、主体的な治療参加を目指す意図的なかかわり

入院前面談を担当する看護師が行う、患者の主体的な治療参加を目指す意図的なかかわりについて、抽出されたカテゴリーごとに結果を述べる。以下、カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを< >、要約を「 」で示す。

### 1) 【入院理由を語ってもらうことで理解していることを把握する】

入院前面談を担当する看護師（以下看護師）は、「最初に医師から説明された入院の理由について聞く」「病気のこと、これからの治療についてはどういうふうに説明されたかを聞き、治療の選択肢があることが予想されたときは、どうして最初にこの治療を選択することにしたかを聞く」など、<入院の目的など医師からの説明内容をどう理解しているか聞いて聞く>ことを面談の中でも早い時期に実施していた。そして、「医師からの説明をどう受け止めているかまず確認し、返答がない場合は簡単に思いつける形にして聞く」など、<医師からの説明についての返答がないときは、再度イメージしやすいように聞く>ことで理解しているかを把握していた。

### 2) 【納得しての入院となるように働きかける】

看護師は、「治療をどのように理解し、納得しているか聞き、迷っているときは外来の医師に戻し、可能であれば同席する」など、<治療について聞き、納得していないときや疑問を感じたときは外来に戻す>ことを行っていた。そして、「面談開始前のうつろな目からの変化や、表情、姿勢、家族から患者がしゃべり始める変化で、自分が入院するという意識が患者に落ちてきたとみている」など、患者の反応を捉え<表情や姿勢、言葉の変化で自分ごとになっているかを判断する>ことをしていた。また、「最初の入院や治療では、患者の納得・同意を得てからの入院を確認することを大事とする」など<納得・同意をし得てからの入院を確認する>や、「理解が不十分なところがあると思ったときは、補足説明をする」など<理解度を確認し補足する>、「自

表1 入院前面談を担当する看護師が行う、患者の主体的な治療参加を目指す意図的なかかわり

カテゴリー (対象者数)	サブカテゴリー	要約数
入院理由を語ってもらうこと と理解していることを把握する(7)	入院の目的など医師からの説明内容をどう理解しているか問いかけて聞く	10
	医師からの説明についての返答がないときは、再度イメージしやすいようにして聞く	2
	治療について聞き、納得していないときや疑問を感じたときは外来に戻す	7
	表情や姿勢、言葉の変化で自分ごとになっているかを判断する	6
	納得・同意をしてからの入院を確認する	3
	理解度を確認し補足する	3
	自分の希望を叶えるために治療していると思えるよう助言や情報提供する	3
納得しての入院となるよう に働きかける(8)	自分の意思で治療できるように支援する	2
	家族が答えたときは本人にきく	2
	お任せしているからわからないという人には具体的な話をする	2
	入院以後のイメージができるように説明や情報提供をする	11
入院前から入院後の治療に 専念できる状況をつくる (8)	不安が強い、困りごとがあるときは治療に専念できるようにそのサポートを優先する	4
	安全に治療ができるように入院前に自宅ですることにポイントを絞る	2
	患者自身が自分の言葉で話せるように支援する	6
本人が表出した意思を尊重 する(6)	本人が知りたい情報かを確認して情報提供する	4
	自分で考え、決めてもらうように後押しする	3
	本人が思っていることを肯定も否定もしない	1
	触れてほしくないとの意思を捉えたときは踏み込まない	1
	話しやすい環境をつくり、いつでも聞く姿勢を示す	2
院内にサポート体制がある ことを伝える(5)	いつでも話ができる人がいることを伝える	2
	退院後を見据えて、表出された不安は関連部署と連携していくことを伝える	2
	面談場所に来ないときは出向く	1
気になることを他部署に引 き継いでおく(5)	気になることがあれば他部署につなげる	5
	共有したいことは記録に残す	2

分のために治療していると思ってもらえるように、何が生きがいなのか確認し、アドバイスや情報提供をする」など「自分の希望を叶えるために治療していると思えるよう助言や情報提供する」、 「自分の治療として自分の意思で治療できるように手助けをし、納得しての入院につなげる」など「自分の意思で治療できるように支援する」ことをしていた。加えて、「患者本人に質問しているのに家族が答えた場合は、あえて本人にどう思っているのか聞く」などと「家族が答えたときは本人にきく」、「お任せ

する、わかるわけがないという患者には、起こりうることを具体的にしながら、同意することの意味を伝える」と「お任せしているからわからないという人には具体的な話をする」ことをしていた。このように様々な視点から患者自身が納得しての入院となることを目指した働きかけを行っていた。

### 3) 【入院前から入院後の治療に専念できる状況をつくる】

看護師は、「一つでも大切なことを覚えてもらって入院すると、入院してからのイメージがつくので、

不安が減るのではないかと行って「疾患や治療に応じて、入院した時よりも退院してからの生活をイメージができるようのご案内や説明をする」など、疾患や治療に応じて「入院後のイメージができるように説明や情報提供をする」ことをしていた。また、「困りごとがあると自分の病気に向き合えなかったり、治療に専念できないため、解決するように多職種と連携を取り、たいていの治療に参加できるように促している」のように「不安が強い、困りごとがあるときは治療に専念できるようにそのサポートを優先する」や、「高齢の方でご家族などが一緒の時は、自宅でやることにポイントを絞る」のように「安全に治療ができるように入院前に自宅ですることにポイントを絞る」ことをしていた。このように患者の状況を踏まえ、入院に向けて心身の準備が整えられるように支援していた。

#### 4) 【本人が表出した意思を尊重する】

看護師は、「患者が後悔しないように、自分がどう考えているか自分の言葉で話してもらい、それを手伝えるために私たちができることを伝える」など、「患者自身が自分の言葉で話せるように支援することや、「先生が言うからやりますような感じの時は、今後どういう生活をしたかと思っているか聞き、自分で考え決めてもらうようにする」など、「自分で考え、決めてもらうように後押しする」ことをしていた。また、「情報があるとならば、選択した時の後悔が少し減るので、具体的な話をするときには、知りたいかを確認し、知りたいと言った方には詳しく説明する」のように「本人が知りたい情報かを確認して情報提供する」、「患者の言葉や表情で、本人に言いたくない意図があると判断したときは、触れてほしくない意思表示をとらえ、あえて踏み込まず説明にとどめる」と「触れてほしくないとの意思を捉えたときは踏み込まない」、「言いやすい環境をつくり、本人が思っていることを肯定も否定もせず、「そういうふうにお考えになったんですね」と言う」と「本人が思っていることを肯定も否定もしない」ことを行っており、患者本人の意思を尊重した関わりをしていた。

#### 5) 【院内にサポート体制があることを伝える】

看護師は、「迷っているやこれはどうなのかという質問ができる環境、話しやすい関係性をもつようにし、いつでも聞きますという姿勢を示す」といった「話しやすい環境をつくり、いつでも聞く姿勢を示す」や、「他の患者や家族の前では話せない場合は、入院後に病棟担当の相談員が相談にのれることを伝える」など、「いつでも話ができる人がいる

ことを伝える」ことをしていた。また、「患者が不安なく治療に臨めるように、表出された不安を外来や病棟など必要な場所と連携をとり、治療だけでなく帰った後の自宅を見据えて必要な場合は退院調整まで最初にアプローチしておく」といった「退院後を見据えて、表出された不安は関連部署と連携していくことを伝える」や、「面談場所に来ない、自分には関係ないという感じの方には、どこでも面談場所と言って、面談しに行く」と「面談場所に来ないときは出向く」ことを行っていた。このように言葉や態度で院内にあるサポート体制について伝えていた。

#### 6) 【気になることを他部署に引き継いでおく】

看護師は、「困りごとやデータベースをもとに生活背景をイメージし、気になるところがあれば話を聞き、必要があれば医師やソーシャルワーカーなどに相談や連携する」など、「気になるところがあれば他部署につなげる」ことをしていた。また、「聞いたことで病棟と外来で注意してほしいことは、フリーコメントに書く」など「共有したいことは記録に残す」ことを行っており、患者の気になる情報を他部署に引き継ぐことで患者の主体的な治療参加につながる環境を整えていた。

## IV. 考察

### 1. 入院前面談場面における患者の主体的な治療参加につながる看護師の役割

入院前面談を担当する看護師は、面談を推し進める前に、患者自身から【入院理由を語ってもらうことで理解していることを把握する】ことをしていた。そして、「治療について聞き、納得していないときや疑問を感じたときは外来に戻す」ことを行っていた。入院前面談は、入院を予定している患者が必ず通る場であり、いわば「ゲート機能」として、患者が次のステップである入院へ進む準備が整っているかを見極める役割を果たしていたと考える。この見極めの際には「家族が答えたときは本人にきく」のように、患者自身が語る内容を重視しており、患者が自らの言葉で語れるような問いかけや環境を整えていた。そして、患者が納得していないと判断した時は、あえて外来に戻すというように患者自身の行動につなげていた。このように入院が決まっても、そのまま入院オリエンテーションへと進めるのではなく、自分のための入院であり、【納得しての入院となるように働きかける】という主体的な治療参加の基盤形成を支援する役割を果たしていたと考える。そして、ゲートを通過した後は、

言語的・非言語的コミュニケーションを用いて患者の意思や決定を丁寧に把握し、それを肯定も否定もせず【本人が表出した意思を尊重する】という姿勢で関わっていた。看護師のこのような姿勢は、患者自身の入院に対する自己認識を深め、主体的な対処行動へとつながると推察される。

入院前面談の多くは初対面かつ短時間で実施される。そのような制約の中で、ゲート機能を的確に発揮していた本研究の参加者は、複数の部署での勤務経験を有した経験年数の長い看護師であった。また、患者の主体的な治療参加をめざした看護実践に日常的に取り組んでいるからこそ研究協力に応じたと考える。入院時支援加算に関する施設基準には「当該部門に入退院支援及び地域連携に係る業務に関する十分な経験を有する専従の看護師又は専従の社会福祉士が配置されていること」が定められている<sup>4)</sup>。このことは、入院前面談を担う看護師の重要性が制度的にも認められていることを示しており、経験と判断力を備えた人材を配置する意義は極めて大きく、患者の主体的な治療参加の促進に直結するといえる。

## 2. 入院前面談をペイシェントフローマネジメントに位置付けた看護師の実践

入院前面談を担当する看護師は、面談を通して、入院に向けて心身の準備が整えられるように、患者の状況に合わせて【入院前から入院後の治療に専念できる状況をつくる】ことを実践していた。また、【院内にサポート体制があることを伝える】ことで、患者が必要なときに適切な支援を活用できるよう備えていた。石井ら<sup>5)</sup>は、入院前面談の前後で患者にアンケート調査を行い、医師の説明に対する理解度、入院後の予定に対する理解度、安心して入院医療を受けられるかといった項目が有意に上昇したことを報告している。看護師によるこのような実践は、患者の入院や治療に対する準備性を高め、安心感を醸成し、入院生活へのスムーズな移行に寄与していると考えられる。

矢田ら<sup>6)</sup>は、退院調整看護師が認識する入院前面談の効果として、【入院計画に対する患者の自己管理能力と理解の向上】【早期からのスクリーニングと連携調整】【多面的な患者情報の共有と把握】が抽出されたことを報告している。入院期間の短縮が求められる現状において、外来通院や入院前からの退院支援では、各部署の看護師間、もしくは多職種との連携を図ることは不可欠である。入院前面談を担当する看護師が【気になることを他部署に引き継いでおく】ことは、看護師によるアセスメント結果を加味した患者情報の共有と把握を進めるものと推測される。

さらに、看護師は【気になることを他部署に引き継いでおく】ことで、間接的に患者の主体的な治療参加を支え、継続する環境づくりにも取り組んでいた。入院前面談という一時点での自らの実践を、地域包括ケアにおけるペイシェントフローマネジメントに位置付けているともいえるのではないかと。入退院支援加算は、患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるよう、施設間の連携を推進するとともに、入院早期から退院困難な要因を有する患者を抽出し、入退院支援を実施することを評価している<sup>7)</sup>。短時間ながら対応した患者が、ペイシェントフローでいえばどこにあたるか、見通しがあるからこそその実践と考えられる。

本研究の対象者である看護師は、入院前面談として入院中に行われる治療の説明、入院生活に関するオリエンテーション、持参薬の確認、褥瘡・栄養スクリーニング等を実施するとともに、患者の主体的な治療参加を目指し意図的にかかわっていた。ペイシェントフローにおける見通しがあるならば、この意図的なかかわりは、単に入院中のみならず、退院後の生活やその後の外来通院等においても、患者の主体的な行動とその継続を促進することにつながると考える。

## V. 研究の限界と今後の課題

今回は、入院前面談を担当する看護師が何を意図して実践していたのかを明らかにすることができた。しかし、限られたフィールドであること、研究協力者へのインタビューによって得た結果であり、研究協力者の実践そのものを記述した結果ではないことから、解釈には限界がある。

今後の課題は、入院前面談を担当する看護師による、主体的な治療参加を目指す意図的なかかわりの実践そのものや、実践がもたらす変化、影響を明らかにすることである。

## VI. 結論

主体的な治療参加を目指す入院前面談を担当する看護師の意図的なかかわりは、面談の早い時期に、患者本人に【入院理由を語ってもらうことで理解していることを把握する】ことを行い、患者の反応に応じて【納得しての入院となる】ように働きかけ、加えて【本人が表出した意思を尊重する】姿勢で患者の主体的な治療参加を支援していた。さらに【入院前から入院後の治療に専念できる状況をつくる】ことで入院前の環境を整え、【院内にサポート体制があることを伝える】

や【気になることを他部署に引き継いでおく】をとおして、患者自身が自ら解決しようとする力を引き出し、見通しを持たせていた。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました研究協力者ならびに各病院の看護部の皆様に心より感謝いたします。

## 利益相反

本研究における利益相反はない。

## 文献

- 1) 厚生労働省.平成30年度診療報酬改定関係資料,2018 ; 9-11.2025年7月14日閲覧  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000196430.pdf>
- 2) 高橋祐美子,相原知美 : 入院前面談による外来・入退

院支援 看護師と多職種との連携 通院中から患者が望む暮らしが続けられる支援を考える,継続看護時代の外来看護,2021;26巻,1号:134-144.

- 3) 神内浩.入院前面談(外来から始まる入退院支援)の課題と展望,JHAC2021;24巻,1号 : 107113.
- 4) 厚生労働省.平成30年度診療報酬改定の概要.2018 ; 64.2025年7月14日閲覧  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000198532.pdf>
- 5) 石井順子,竹島美千代. 入院時支援加算の算定要件を満たす支援強化を目指して 患者アンケート調査の結果より,日本医療マネジメント学会雑誌2022 ; 23巻,2号 : 88-93.
- 6) 矢田有佑, 谷山牧, 山下留理子. 退院調整看護師が認識する「入院前からの退院支援」の効果と課題. 国際医療福祉大学学会誌2022 ; 第27巻,1号 : 43-52.
- 7) 厚生労働省.平成30年度診療報酬改定関係資料,2018 ; 9-11.2025年7月14日閲覧  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000196430.pdf>